

入選

ありがとうの笑顔

山口県 由宇小学校

六年 竹本 風沙

私の町には、他の国から働きに来ている人がたくさんいます。

ある日、私は英語のじゅくに行くときに、横断歩道で工場の服を着た外国の方に出会いました。その人は、一台一台通り過ぎる車を目でおって、「まだかなあ、まだかなあ」という様子で信号機が青になるのを待っていました。

しかし、信号機のおしボタンは「おまちください」ではなく、「おしてください」となっていました。そのとき、私は（この人、おしボタンに気づいていないのかな）と思いました。

私は、英語を習っていたので、

“Want to cross a crosswalk?”（横断歩道をわたりたいのですか？）

と英語で声をかけることはできました。しかし、そのときは声をかける勇気と時間がなかったために、声をかけられませんでした。いつもは知らない人でも声をかけることができるのに、外国の方が相手となると、英語が上手に伝わるのかが心配で、こわくて、声をかけることができませんでした。

なんであのとき、声をかけられなかったのだろう。声をかけられなくても、せめておしボタンだけでもおしてあげればよかったのにと、私はあとからとても後悔しました。

外国の方が気づいていないとわかっていながら、なにひとつ行動しないで通り過ぎた自分自身が、あとでとてもいやになりました。私は、次に気づいていない人がいたら必ず声をかけよう、と心の中で決心しました。

しかし、おしボタンに気づいていない外国の方には、なかなか出会うことができませんでした。

（やっぱり、あのときに声をかければよかった）と頭の中でずっとその言葉が回っていました。

あれから一年たったある日、私は英語のじゅくに行くところ、またおしボタンに気づいていない外国の方に出会いました。その人は、ずっと下をむいてスマートフォンを見ていました。今回も言葉が上手に伝わるか心配で、なかなか声をかけることができませんでした。しかし、以前「声をかけてあげればよかったのに」と後悔したことを思い出しました。

そして、今回も前と同じではだめだと思い、勇気を出そうとしました。しかし、まだこわかったので、私は静かに信号機のおしボタンをおしに行きました。そして、外国の方を見ると、私がおしたことに気づいてくれました。その人はマスクをしていなかったもので、気をつかってくれて声を出さずに、「ありがとう」という様子で、頭を軽く下げて少し笑って横断歩道をわたって行きました。

今回、外国の方の笑顔を見たとき、小さな親切をして本当によかったと思いました。私は、小さな親切をしたときの私の中のたくさんの勇気と、そのときに見た外国の方のやさしい笑顔を一生忘れないと思います。